

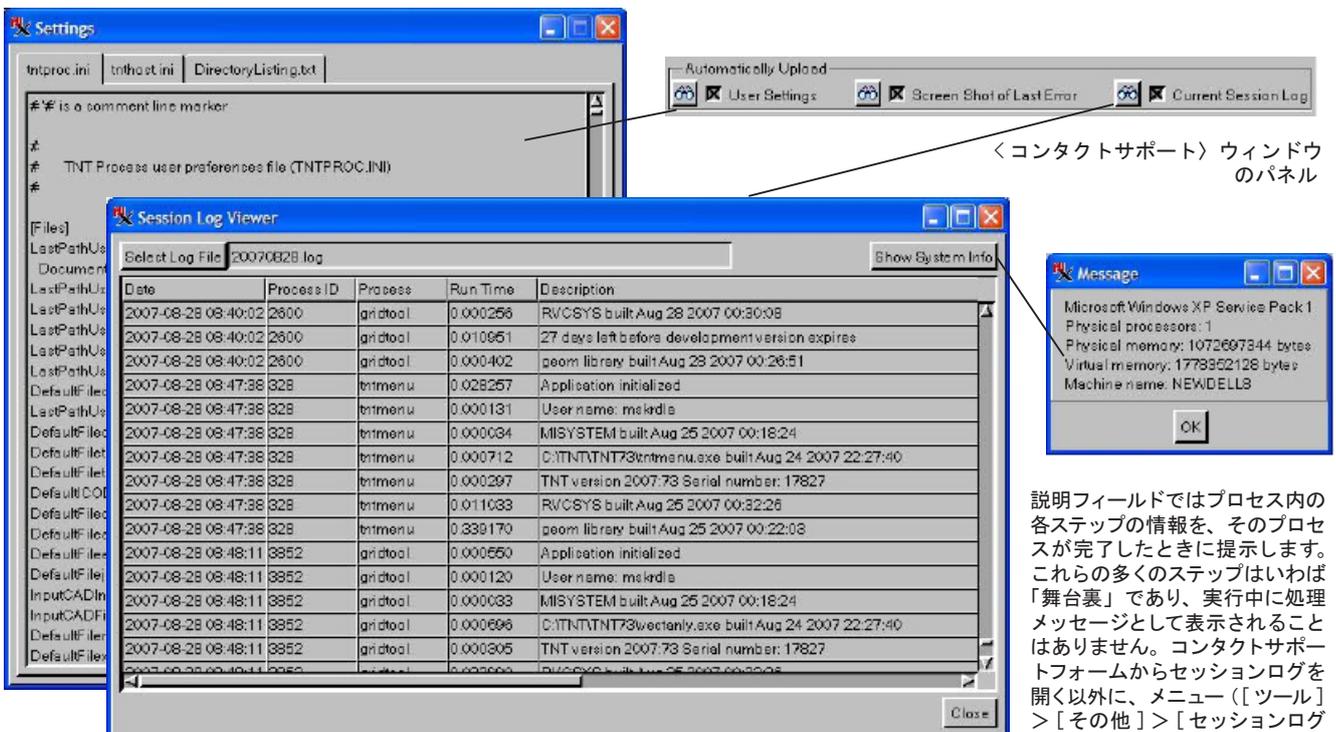
ユーザ設定とセッションログの表示

TNT 製品のコンタクトサポートフォーム ([ヘルプ] > [コンタクトサポート]) を用いて、新機能の要望や TNT 製品の機能を最大限に使用するためのサポートの要請、およびエラー報告を行うことができます。TNT エラー報告機能を補助するために、このフォームがお使いのコンピュータから情報を自動的に収集します。〈コンタクトサポート〉ウィンドウ (下の図を参照) の [自動アップロード (Automatically Upload)] パネルにあるボタンを使って、自動収集された全ての情報に自ら直接アクセスすることが可能です。セッションログを分析することでプロセスの操作に関して幾分知ることができ、このログからトラブルシューティング時にプログラマーにとって役に立つ情報を得られる可能性があります。セッションログの内容に関するさらに詳しい情報については、“セッションログファイル” という表題の 2004:70 テクニカルガイドをご覧ください。

[設定の表示 (View Settings)] ボタンで開く〈設定 (Settings)〉ウィンドウは、実行している TNT 製品のバージョンで使用中の tntproc.ini や tnthost.ini ファイルの内容の他、現在実行している TNT 製品のインストール (DirectoryList.txt タブ) を含むディレクトリ内の全ファイルと日付のリストをテキスト形式で表示します。[セッションログの表示 (View Session Log)] ボタンを押すと現在のセッションログがデータベース表形式で開き、例えば並べ替えやフィールドの順番の変更のような TNT の

標準表操作を用いて情報を再配置できます。フィールド内で並べ替えをするには、見出しをクリックしてください。フィールドの順番を変更するには、クリックした見出しをそのまま右か左へドラッグしてください。このウィンドウから、以前のセッションのログを開いてお使いのコンピュータの基本情報を表示することもできます。

セッションログビューアの表にあるフィールドは、日付 (Date)、実行時間 (Run Time)、プロセス ID、プロセス、そして説明 (Description) です。日付 (Date) フィールドは、説明フィールドに詳細が記された処理過程の終了時間を報告します。プロセスの開始時間も記録されます。実行時間は秒単位で報告されます。プロセス ID は、プロセスの各インスタンスに与えられる独自の番号です。プロセス (実行可能なプログラム) には、異なるメニュー選択が含まれることがあります。例えば、ベクタのフィルタやバッファゾーンは共に、vectanly.exe プロセスを実行します。プロセス ID があることで、同時にこの 2 つのプロセスが実行されている場合にそれらを区別することができます。典型的な TNT ユーザは同時に 2 つ以上のプロセスを実行するため、セッションログを日付で並べ替えても、セッションログファイルには多くのプロセスが混在します。プロセス ID で並べ替えると、実行される全ての処理のインスタンスがグループ分けされます。同じメニューで 2 つのインスタンスを実行すると、プロセス ID は同じになります。



説明フィールドではプロセス内の各ステップの情報を、そのプロセスが完了したときに提示します。これらの多くのステップはいわば「舞台裏」であり、実行中に処理メッセージとして表示されることはありません。コンタクトサポートフォームからセッションログを開く以外に、メニュー ([ツール] > [その他]) > [セッションログの表示]) からも直接開くことができます。